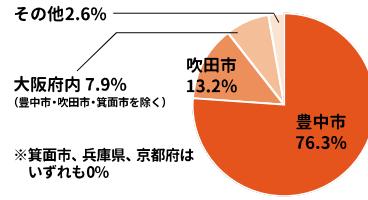
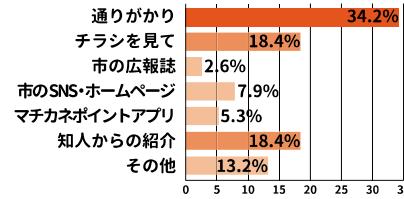


来場者アンケート結果

1. お住まいを教えてください(回答者38人)



2. 何を見て参加されましたか？(回答者38人)



事務局からのレポート



参加者からのレポート

社会実験終了後、ワークショップに参加されたみなさんと振り返り会を開催しました。みなさんからいただいた1年間の振り返りの感想を、3つの視点からまとめました。

●多様な参加者が交流する機会

多様な背景を持つ参加者が集まり、それぞれの想いや視点が交差する良い機会となりました。千里への愛着から生まれる取り組みを、今後どう継続するかが重要だと感じています。また、コラボでのカフェスペース運用も始まり、自主的に企画できる体制が少しずつ整ってきました。今回の参加者のみなさんとも、この場所をうまく活用していきたいです。

●地域資源の再発見

千里東町公園の竹林整備には複数のチームが関わり、竹の加工だけでなく整備から関わることで、楽しさや苦労を体感しました。その経験があったからこそ、社会実験当日に来場者へ整備の背景も含めて伝えることができ、「身近な場所にこんなに素敵な竹林があったとは！」と驚きの声をいただきました。地域への関心のきっかけになったと思います。

● 学生の参加とアプローチ

ワークショップで子どもの意見が実現したり、ブックマルシェに学生が参加してくれたりと、多世代が交わる場ならではの良さがありました。より一層、学生世代が参加できるような情報発信にも力を入れていきたいと感じました。

3. 参加して印象に残ったことは何ですか

- ・青竹ふみづくりや体操が楽しかった。
 - ・竹をきるのが意外と大変だった！
 - ・いろいろな草や竹を見て楽しかった。
 - ・普段行かないところにいて、東町公園に初めて行って癒されました。
 - ・自然豊かな公園で子どもも楽しんでいてよかったです。
 - ・コーヒーがすごく美味しく感謝です。
 - ・故郷を思い出しました。
 - ・みなさんの温かさに触れ、豊中っていいなーと思った。
 - ・みんな親切だった
 - ・広場に開けたイベント。千里らしい！
 - ・マチカネくんの大きさにびっくりしました。

4. 千里中央駅周辺であつたらいいと思うことは何ですか？

- ・静かに過ごせる公園が欲しい。
 - ・ゆっくりひとりで過ごせる場所やお店
 - ・児童館があると良い。
 - ・本でつながる場所、芝生の広いスペース、映画館があると良い。
 - ・ピクニックができるような広い公園。
 - ・もうこれ以上いらない！

さまざまな地域のつながりが生まれた社会実験

2024年10月から始まった「これから千里一活動づくりワークショップ」。千里中央駅周辺の地域の皆さんや企業、市民団体などが協働し、新たな取り組みを始める第一歩として開催されたワークショップでした。ワークショップを通じて生まれた6つのプログラムは、そこで出会った仲間たちと、その枠をさらに越えて地域のさまざまな人や団体と連携する機会となりました。社会実験のイベント名である「ひとつなぎ」を、まさに体現するような取り組みとなりました。今回築かれた関係を大切にしながら、今後も活動の輪がさらに広がるように進めていきたいと思います。

The logo consists of several elements: 1) Large, bold, black-outlined Japanese characters 'せんじゅ' stacked above 'ひとつかなき'. 2) Below these, the word 'フュース' is written in large, colorful block letters (red, yellow, blue, green). 3) At the bottom, the word 'NewsLetter' is written in a smaller, blue, sans-serif font. 4) In the top right corner, there is a red curved banner with white Japanese text '何かかわいい' (Konna kawaii). 5) The background features a light green circular gradient.

2025年3月29日(土)、千里のまちを舞台に、人と
地域をつなぐお祭りを開催しました。

このイベントは、千里の皆さんのがら地域の課題に向き合い、「自分たちに何ができるか」を考え、形にしたプログラムです。千里の魅力を再発見し、新たなつながりを見つける一日となりました。

当日開催された6つのプログラムをご紹介します。



千里の魅力を再発見できるような6つのプログラムを開催しました。テーマは「食」「竹」「子育て」。
それぞれのプログラム内容をご紹介します。

1 千里のおいしい想い出発掘せん？

千里文化センター「コラボ」の2階屋外通路にブースを設けて、千里の食の想い出を来場した方々と共有しました。子どもからシニアまで多様な世代の方々から素敵なお絵やコメントを残していただき、これらが描かれた「想い出カード」は70枚も集まり、千里エリアの大きな地図にもプロットしていきました。美味しいコーヒーの香りと多くの人たちの「食の想い出」があふれる楽しい空間となりました。

昔の千里エリアでの「食の風景」を表す写真をブースに掲載することで、来場した方々との対話が広がりました。また、準備した「想い出カード」のデザインや、地元で活動している「Co珈琲」とのコラボなど、親しみやすいブースの雰囲気づくりができました。



4 五感とおかん～時々おとん～

五感を育むあそび場づくりを目指しました。公園で野草を探したり笹の葉で笛づくりをするまちあるきツアーを行い、その後、千里の魅力を伝える映像を観ながら笹の葉からつくったお茶を試飲しました。また、お土産には千里の竹でつくったコップも準備しました。終了後に、再び公園に戻り自然あそびをする子どももいるなど、千里ならではの五感を育むあそびの体験をつくることができました。

千里だからこそ、このメンバーだからこそ魅力的な企画が実現できました。また、地元の参加者から「千里の自然的魅力に気づいた」という感想をもらうなど、新たな視点で千里の魅力を感じてもらうことができました。



2 ママパパほっこり休憩室

日頃子育てに奮闘しているママパパに、少し子どもから離れてみる機会をつくりました。大人はゲームをしながら子育ての悩みを打ち明けたり、近隣の子育てに関するお役立ち情報を共有したり、一人ランチを満喫。その間、子どもたちは、高校生のお姉さんたちと一緒にクッキーをつくりながらおにぎりをつくり食べました。今後もぜひこういう場を続けてほしいとのお声もいただきました。

当日参加を呼びかける工夫が奏して多くの方にご参加いただき、大人同士の交流が盛り上りました。どの方も長時間滞在してくださり、こういった場のニーズに手応えを感じることができました。



5 千里の青竹ふみふみ、ほかほか体操。

千里の竹林を知ってもらい、竹を身近に感じてもらうために、千里の竹で「MY青竹踏み」をつくり、体操イベントで一緒に体を動かすプログラムを開催しました。長い竹を切り、割り、磨いて一人ひとりのMY青竹踏みを作りました。昼と午後の2回、パルフェスのステージで青竹踏みを使った体操を行い、子どもから大人まで多くの方が体験を楽しみました。

実際に千里の竹林を管理されている「千里竹の会 豊中」の協力により、竹を加工する作業を体験することができました。また「MY青竹踏み」づくりにたくさんの方にご参加いただき、今後の竹にかかるプログラムへの期待も持てました。



3 世界を広げるブックマルシェ

中高生の居場所づくりを目指し、子どもたちが自分のおすすめ本を持ち寄って販売する「ブックマルシェ」を実施しました。地域の大手書店によるおすすめ本の紹介や、図書館による貸し出しも行われました。多くの方に訪れていただき、本を通じた交流の場をつくることができました。当日は付箋を使ったアンケートも実施し、70件近くのご意見をいただきました。

子どもたちが自ら本を販売することで、自信や達成感を得る機会になりました。図書館や地域の大手書店とも連携でき、多様な世代が関わる場をつくれたことが、大きな成果でした。



6 あつまれ！竹林ひろば

千里東町公園を会場に、千里の竹林を間伐する過程で出た竹を活用し、楽器や遊び道具づくりを行いました。竹のカスタネットづくりでは、子どもたちが真剣に竹細工を楽しむ様子が見られ、その横では、親御さんに千里の竹林の歴史や現在の取り組みについて紹介しました。また、モルックやフラフープでは、「竹でこんなものも作れるのか！」といった驚きの声も聞かれました。

「千里竹の会 豊中」のみなさんと共に竹林の間伐に取り組むことで、チームのメンバーは、竹林整備の楽しさと大変さを体験しました。その経験があったからこそ、社会実験に参加されたみなさんに、その魅力を伝えることができました。

